

結城農業かわら版

第172号 令和7年10月21日発行

発行元: 結城地域農業改良普及センター

TEL: 0296-48-0184

FAX: 0296-48-2682



HPへアクセス↑

管内で雑草イネの発生が確認されています。ご注意ください！

管内のいくつかの地区において、雑草イネの発生が確認されています。
漏生イネと混同されることがありますが、雑草イネは以下の特徴があります。

雑草イネの特徴

- ・水田に自生して雑草となるイネ。水稻における難防除雑草。様々な種類がある。
- ・粳が脱粒しやすい、赤米のものがあるなどの点で栽培用品種と異なる。
- ・収穫物に混入すると異品種混入となる。**多発生すると減収となるケースがある。**
- ・脱粒により種子がほ場に残りやすく、これが翌年の発生源となるため、基本的に**対策をしなければ年々増加していく。**

漏生イネの特徴

- ・主に前作作付けした品種の脱粒種子から発生する。
- ・主として作付け品種を切り替える際に発生し、前作の異なる品種の玄米が混入することで検査等級を低下させる等の問題が起こる。
- ・栽培用品種は一部の例外を除き脱粒しにくいいため、同じ品種の作付けを繰り返していれば、切り替える前に作付けしていた品種の漏生イネは年々減少していくことが多い。

管内では、コシヒカリと比較して出穂期が早いものと遅いもの、少なくとも2種類の雑草イネが確認されています。これらはいずれも赤米であるため、収穫した玄米からは色彩選別機で除去できますが、水田から雑草イネの発生が無くなるわけではありません。**雑草イネは蔓延すると対策が困難となるため、早期発見・早期防除が重要です。**

今年の収穫物に赤米が混じっていた、ほ場の見回りをしているときに粳のついていない穂を見た等心当たりがありましたら、普及センターまでご相談ください。



雑草イネが
発生している圃場



ほ場で粳が
脱粒した雑草イネ



管内で発生が確認されている雑草イネは
粳の先端が着色している



色彩選別機で選別された
雑草イネの玄米

結城地域アグリ講座（農業学園）を開催しました

8月25日（月）に病虫害・農薬安全使用講座、9月10日（水）に先進事例研修を開催し、管内の若手生産者が参加しました。

病虫害・農薬安全使用講座では、結城市の農薬メーカーの工場や研究所を見学させていただき、普段使用している農薬がどのように開発・製造されているのか知ることができました。また、安全で適切な農薬の使用方法についても学ぶ機会となりました。

先進事例研修では、常総市の施設野菜経営（キュウリ）・露地野菜経営（ハクサイ・キャベツ・ネギ）について見学しました。特に夏の高温対策に関する資材や栽培の工夫について説明してもらい、先輩農業者と意見交換することができました。

受講生からは実際に農薬メーカーの設備や先輩農業者の圃場を見学できたことで、大変参考になったとの声が多く上がりました。

今後も普及センターでは、若手農業者を対象にアグリ講座を開催し、知識・技術の習得や地域での仲間づくりなどを促進していきます。



先進事例研修の様子

農業機械の安全使用や作業環境の点検を心がけましょう

ここ数年、農作業中の事故により全国で毎年200名以上の方が死亡しています。事故を未然に防ぐために、農業機械や作業環境の点検を行いましょう！



機械は必ず作業開始前に点検！併せて定期的な検査も実施しましょう！

- ・作業開始前に、オイル量、ベルトのゆるみ・損傷、安全カバー、クラッチ・ブレーキの利き等を点検しましょう。
- ・フォークリフト、小型ボイラーなど定期的な検査や有資格者による検査が義務付けられている機械があります。こまめな点検をこころがけましょう！

自分の身を守りましょう！

- ・機械操作時はヘルメットやシートベルトを着用しましょう。
 - ・乗用型トラクターの安全キャブ・フレームを使用すると転倒時に安全域を確保できます。
- ※令和9年1月1日以降に製造された乗用型トラクターで道路を走行する場合、シートベルト着用が義務化されます。

5S活動で、働きやすく安全な環境を作りましょう！

「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」

- ・5S活動を行うことにより、農作業の効率化、事故やケガの防止につながります。
- ・作業場や農薬保管庫など整理整頓されているか今一度チェックしましょう！